

高山辰雄展

高山辰雄展

2024 土 月・祝 開館時間 9:30～17:00(最終入館16:30)
7 | 13 → 9 | 23 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
入館料 一般 ¥1,200、高大生 ¥800、
中学生以下無料 ※要保護者同伴
※高大生は要学生証提示 ※専門学校・専修学校は大学に準じる
※障害者手帳をお持ちの方手帳をご提示ください。付添者1名のみ無料

WEB 事前予約制 | ご予約時にネット決済による入館チケット購入

TAKAYAMA TATSUO

人間をみつめ、
考え、描いた
一人の画家の生涯

日本画家・高山辰雄（1912-2007）は大分に生まれ、中学校卒業と同時に上京し 1931 年に東京美術学校（現・東京藝術大学）日本画科へ入学します。在学中は松岡映丘の門下生として日々研鑽に励み、1934 年の第 15 回帝展に初出品した《湯泉》が入選する快挙を果たし、1936 年に東京美術学校を首席で卒業するなど、画家として順調なスタートを切ります。戦後まもなくポール・ゴーギャンの伝記を読むことで、その生き方に強く感銘を受けると同時に、ゴーギャンの作風に傾倒するようになり、その後の作品に色濃く表れます。1960 年代以降、人間の精神性に触れるような作風や色使いを用いるようになると、人物の表現や色彩の特徴に変化が見られるようになります。特に 1970 年代以降の作風は、人間の本質を捉えるような様々な人物画が描かれるようになり、1990 年代以降、代表作となる《聖家族》の連作に象徴される、極端に色彩を抑えたモノクロームの表現や中国の宋元画を彷彿とさせる作風も見られるようになります。

本展では、画家・高山辰雄の 70 年以上に亘る画業の中から、《聖家族》を一つの頂点として、《聖家族》制作に至るまでの人物像を中心に展覧します。ひたすら研鑽に励んだ学生時代の作品、ゴーギャンへの傾倒など、高山の制作における画期となる作品を紹介し、高山が追い求めてきた日本画の境地を明らかにします。滋賀県では初の開催となる高山辰雄作品の魅力を紹介します。

開催概要

- 名称 高山辰雄展
- 会期 2024 年 7 月 13 日（土）～ 9 月 23 日（月・祝）
前期展示：7/13～8/12 後期展示：8/14～9/23 ※会期中展示替を実施します。
- 開館時間 9：30 ～ 17：00（最終入館 16：30）
- 休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）
- 入館料 一般 1,200 円、高大生 800 円、中学生以下無料 ※要保護者同伴
- 主催 佐川美術館（公益財団法人 S G H 文化スポーツ振興財団）
- 後援 滋賀県、滋賀県教育委員会、守山市、守山市教育委員会
- 特別協力 大分県立美術館、大分市美術館
- 協力 S G ホールディングス株式会社、佐川急便株式会社、佐川印刷株式会社

高山辰雄展

展示構成

第一章 画家・高山辰雄の誕生

東京美術学校（現・東京藝術大学）在学中に帝展で初入選するなど、順調な画壇デビューを果たした高山辰雄の若き研鑽の日々から生み出された作品を紹介します。

第二章 ゴーギャンへの憧憬

戦後まもない頃、日展での落選や生活苦にあった高山は、山本丘人の勧めでゴーギャンの伝記を読むなり、その生きる姿勢や芸術観に強く惹かれていきます。本章では、戦後の作品からゴーギャンの作風を強く意識させる作品を中心に構成します。

第三章 生命への追求

1973年には自身初となる大規模な個展を開催するなど、画家として順風満帆な日々を過ごす高山は、深い洞察力のもと自然や人間の生命に対する精神性を画面に表現するなど、独自の画風を確立していきます。本章では、現代に生きる人間を描いた高山の新たな展開を紹介します。

第四章 聖家族

1976年にはじめて取り組んだ銅版画集の《聖家族》と1990年代における代表作《聖家族》の連作を中心に展示し、80歳を過ぎても新しい表現方法に挑戦する高山の新境地を紹介します。

トピックス展示Ⅰ 故郷を描く

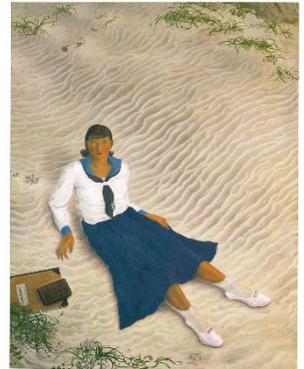
高山が描いた故郷・大分の風景画を紹介します。

トピックス展示Ⅱ 静物を描く

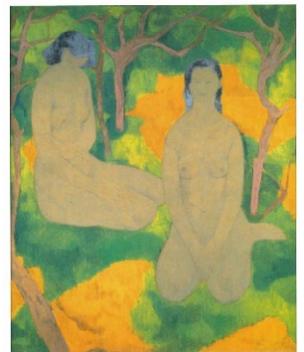
高山が描いた花や野菜などの静物画を紹介します。

掲載画像

- ①《砂丘》1936年 東京藝術大学
- ②《樹下》1951年 大分県立美術館
- ③《星辰》1983年 世田谷美術館
- ④《聖家族Ⅰ》1993年 吉野石膏コレクション



①《砂丘》



②《樹下》



③《星辰》



④《聖家族Ⅰ》

高山辰雄展

見どころ

人間を見つめ、考え、描いてきた高山辰雄の70年に亘る画業を一堂に公開

代表作《いだく》や《聖家族》等、名品の数々を展示

高山の画業において、初期から最晩年まで一貫して描いてきたのが人物像でした。「人間が描きたい。なんとか人間が表現できたらと、真底から思っている…」と語る高山は、生きる尊さや生きる迷いなど、人間の「生」に対して深く考え、その表現方法を探求してきました。特に1970年代以降、《母》（1970年、大分県立美術館）や《食べる》（1973年、大分県立美術館）に見られるような、人間の「生」に対する畏敬や渴望といった根源的な精神性を表現した作品を発表します。

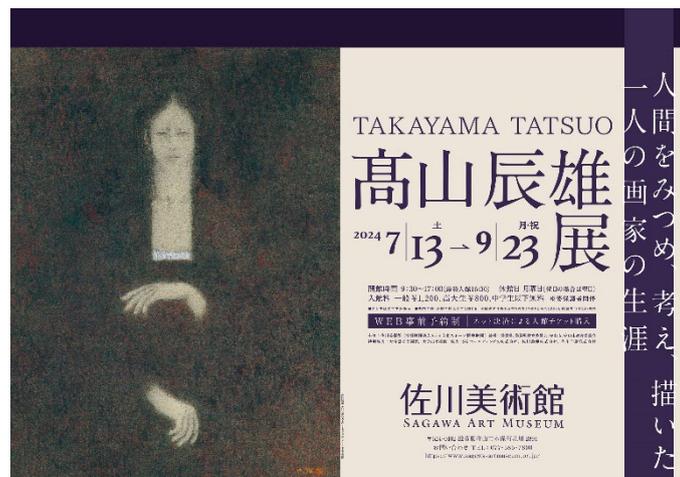
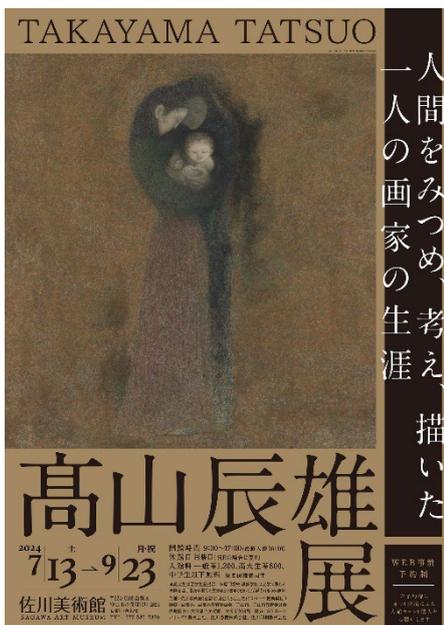
その中で1977年に発表した《いだく》（東京国立近代美術館）は、高山が描く人物像における一つの到達点と言えます。本展では、高山の飽くなき人間研究によって生み出されてきた人物像の名品をご覧ください。

また関西地区では24年ぶり、滋賀県では初となる高山辰雄の大規模な回顧展になります。



《いだく》1977年 東京国立近代美術館

広報用貸出画像



(左) ① 掲載画像：《いだく》1977年 東京国立近代美術館

(上) ② 掲載画像：《白い襟のある》1980年 メナード美術館

●広報用画像について

本プレスリリース中に掲載している画像データ(広報画像と記載されているもの)をご用意しております。画像データをご希望の方は、同封の作品画像使用申込書(プレゼント用無料観覧券申込付)に必要事項をご記入の上、当館までファックスまたは下記担当者宛にメールでお申込ください。当館ホームページ(<https://www.sagawa-artmuseum.or.jp/press/>)からも画像申請いただけます。

画像使用にあたり、各画像に必ず申込書記載のキャプションと著作権表記を付けてください。また、画像のトリミング、オーバープリント、上書き、改ざんはできません。画像は使用後必ず削除し、保存しないでください。

WEB上で画像を使用する際は、**低解像度(72dpi)**でしか使用できません。

なお、作品画像につきましては、当該展覧会の広報以外でのご使用はお断りしております。

原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要するため、お早めにお問い合わせ致します。

◆交通のご案内：

お車ご利用の場合

駐車場有 70 台、美術館入館者は無料

- 名神・瀬田西 IC から湖周道路経由 (約 30 分)
- 名神・栗東 IC から守山栗東線経由 (約 30 分)
- 名神・京都東 IC から湖西道路(真野 IC)・琵琶湖大橋経由 (約 40 分)

鉄道ご利用の場合

- JR 琵琶湖線 守山駅から路線バス 「佐川美術館」下車 (約 35 分)
- JR 湖西線 堅田駅から路線バス 「佐川美術館」下車 (約 15 分)

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人 S G H 文化スポーツ振興財団
佐川美術館

〒524-0102 滋賀県守山市水保町北川 2891
TEL : 077-585-7800 / FAX : 077-585-7810

企画担当学芸員 : 井上 英明 (いのうえ ひであき)、栗田 頌子 (くりた しょうこ)

井上メールアドレス h_inoue005@sagawa-artmuseum.or.jp
栗田メールアドレス s_kurita@sagawa-artmuseum.or.jp

画像使用申込書

高山辰雄展
2024 土 7月13日 - 9月23日 月・祝

佐川美術館 宛

FAX / 077-585-7810

申込日 : 年 月 日

<p>画像掲載にあたっての注意事項</p>	<p>■申請された方法、目的以外には使用しないでください。 ■掲載誌・紙は資料として1部お送りくださいますよう、お願い致します。 ■原稿は企画担当者まで必ずお送りください。確認に期日を要する為、お早めをお願い致します。 ■WEB 事前予約制であることを必ず明記ください。予約の詳細はホームページに記載致します。</p>
<p>ご使用画像</p> <p>※ご希望の画像にチェックを入れてください。</p>	<p><input type="checkbox"/> ① 掲載画像：《いたく》1977年 東京国立近代美術館</p> <p><input type="checkbox"/> ② 掲載画像：《白い襟のある》1980年 メナード美術館</p> <p>画像掲載の際には、上記キャプションを必ず付けてください。</p> <p>その他の作品をご希望の場合、画像使用に対する著作権使用料が発生致します。申請等お時間をいただく場合がございます。お早目にご相談ください。</p> <p style="text-align: right;">計 _____ 点</p>
<p>媒体名</p>	
<p>貴社名</p>	
<p>ご芳名（ご所属）</p>	
<p>ご連絡先</p>	<p>ご住所：（〒 _____ ）</p> <p>メールアドレス： _____</p> <p>TEL： _____ FAX： _____</p>
<p>発行予定日</p>	<p>年 月 日 号</p>
<p>使用形態（○印）</p>	<p>Web サイト / 印刷物 （カラー / モノクロ）</p>